

■ [3] 「連続」「すっかり」「くまなく」「補う」のup ■

「上方向」は、当然「力が勢いを増す」方向でもあります。ここからupには「連続する」、その結果「最後まで」「くまなく」「完全に」「すっかり」などの意味が出てくることとなります。(これに対してdownは「勢いがなくなる」方向を表しますが、downについては次の章で詳しく扱います)

ですから、例えば、eat (食べる) にupを加えて **eat up** とすると、「すっかり食べる」→「平らげる」を意味し、**drink up**だと「飲み干す」という意味が出てくるのです。

次の例を見てください。

- ① **You must pay up the money as quickly as possible.**
(その借金は至急完済しないとイケません)
- ② **You should wash up these dishes with this detergent.**
(その皿はこの洗剤で洗った方がいいわよ)
- ③ **Time is up.**
(もう時間だわ)

① **pay up** ではpay (支払う) にup (くまなく、最後まで) を加えて、「すっかり支払う」から、特に「滞納していたお金を全部支払う、完済する」という意味で用いられます。(☞ p.237 pay off参照)

② **wash up** も wash + up で「すっかり洗う」から「洗ってきれいにする」という意味が出てくるのです。

③はどのように「時間が来た」にupを用いるのでしょうか？
これを理解するためには、次のupのマインドに関する法則を知る必要があります。

法則

▶▶▶ upと動作の完了

ある動作を開始して、終わるまでに時間的な間がある場合、upにより、その動作の完了、すなわち、“ある状態まで「補う」「至る」「至らしめる」こと” が表される。

英語の動詞は「ある動作をする」場合、「動作の着手」から「動作の完了」までに時間的な間があるとき、「初めから終わりまで連続して」「とことん」などを表すのにupを用いるのです。

例えば、**dress up**はどのようにして「正装する」という意味が出てくるのでしょうか？

He dressed. だけですと、「彼は服を着た」という動作しか表しませんが、upを加えることにより、「服を着る」という動作に着手をして、その行為の連続で「完全に、ちゃんと最後まで」という意味が強められた結果、「正装する」という意味が初めて出てくるのです。

動詞に**up**を加えることにより「ちゃんとする」という意味が出てくるということです。

さらに、「完全に、ちゃんと最後まで」ということは、「足りないところを補う」という意味でもあります。

次の例を見てください。

You have to **make up** the report 30 minutes before the meeting starts.

(会議が始まる30分前に報告書を作成しておくように)

makeは「作る」という訳語で覚えておられると思いますが、本当の意味は「進む」「進める」です。

「進める」という意味にupを加えると、「準備をして間に合わせるように(使えるように)進める」→「準備をして～を整える」「～を補う」という意味が出てくるのです。

ですから、make up the reportで「報告書を準備して整える」→「報告書を作成する」こととなります。

さらに、make upは「準備をしてちゃんと整える」から、「化粧をする・扮装をする」「話をでっちあげる」の意味でも用いることができるのです。

The criminal **made up** the story and said he wasn't there at that time.

(犯人は、話をでっちあげて、その時はそこにいなかったと言った)

つまり、makeにupを加えることにより、「至らない、まだできていない」状態を「ちゃんとする」「補う」という意味が出てきたことがおわかりになると思います。

「至らない、まだできていない」ものが、

- 食事であれば、make up a mealで「食事を準備する」
- 仕事であれば、make up the workで「仕事の埋め合わせをする」
- 時間であれば、make up the timeで「時間の埋め合わせをする」

という意味で用いられるのです。

■ [4] up toは「目的とするところに至る」

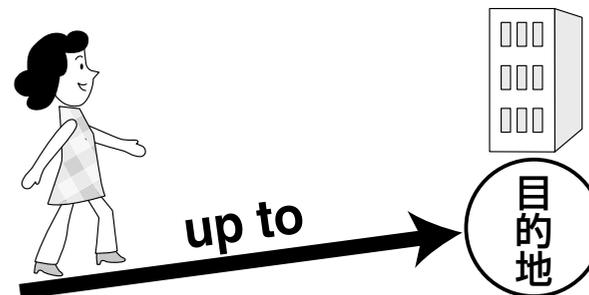
副詞はさまざまな前置詞と結びついて、その意味を強めることがあります。(これを「二重前置詞」と呼ぶことがあります)

upは、toやwithなどと結びついて複合的な意味を作り出します。

まず、up toは、toが「～という目的方向へ」を表し、upが「空間・時間・距離の隔たりを埋める」であることから、あわせて

「目的とするところ到達するのに、主語から空間・距離、あるいは時間の隔りがある場合にそれを補う」

といった意味になります。そこから、「～まで至る」「～のところまで補う」という場合にup toを用いることができることとなります。



「至る」という意味では、

- ① He **climbed up to** the summit at last.
(彼はとうとう山頂まで登り詰めた)
- ② It is **up to** you whether you quit or not.
(やめるかどうかはあなた次第だ)